



A N N U A L R E P O R T

NPO 法人 soar 活動報告書

2017.11.1 - 2018.10.31

代表理事からのメッセージ

「今日ここにきて、“生きていてよかった”
って思いました」

soar のイベントで、ある参加者の方が言ってくれた一言。誰もが「私はここにいいんだ」と肯定して生きていくことができる社会をつくりたい私たちにとって、これほど嬉しい言葉はありません。

2015年12月のメディアオープン当初から、私たちはメディアや場づくりなどを通して、全ての人が自分の持つ可能性を活かして生きていくことができる未来をつくるために活動してきました。

この1年はメディアが大きく成長し、SNSや検索等で多くの方に記事を読んでもらった、イベントや説明会などでもたくさんの方とお会いすることができました。インターネット上でもオフラインの場でも、soarと関わることで「生きていてよかった」と感じられる場を増やせたのは、何よりも嬉しいことでした。

soar は 2018 年度、活動が広がっていくにつれて様々な課題にぶつかりました。中でも大きかったのは、soar で働くメンバーが増えていくなかで起きた、組織におけるメンタルヘルスの課題でした。互いの弱さを共有しあいながら、そして自分らしい暮らしを大切にしながら、心もからだも健やかに働き続けるにはどうしたらよいのだろうか？

その問いに向き合うことは、soar が目指す社会に向き合うことそのもの。私たち自身が自分の弱さを共有しながら、安心して自分のよさを活かしながら生きていけるよう努力することは、そのまま soar の活動をよりよくしていくことにつながりました。

そしてこの1年で、soar の活動を支えてくださるサポーター会員は数倍になりました。soar が掲げるビジョンに共感し、同じ未来を目指す仲間がいることは、とても心強いです。

サポーターのみなさん、読者のみなさん、soar を応援していただき本当にありがとうございます。

これからも「誰もが自分の可能性を活かして生きる未来」を目指して、ともに進んでいただければ嬉しいです。

代表理事 工藤 瑞穂



Our vision

誰もが自分の可能性を活かして生きる未来をつくる

私たちが目指すのは、障害や病気、性的・民族的少数性、経済的・機会的な格差などによって、人が自分の持っている可能性にふたをされることがない社会。

生まれ育った環境や自身にある困難によらず、誰もが自分の可能性を活かして生きる未来をつくります。

Our Mission

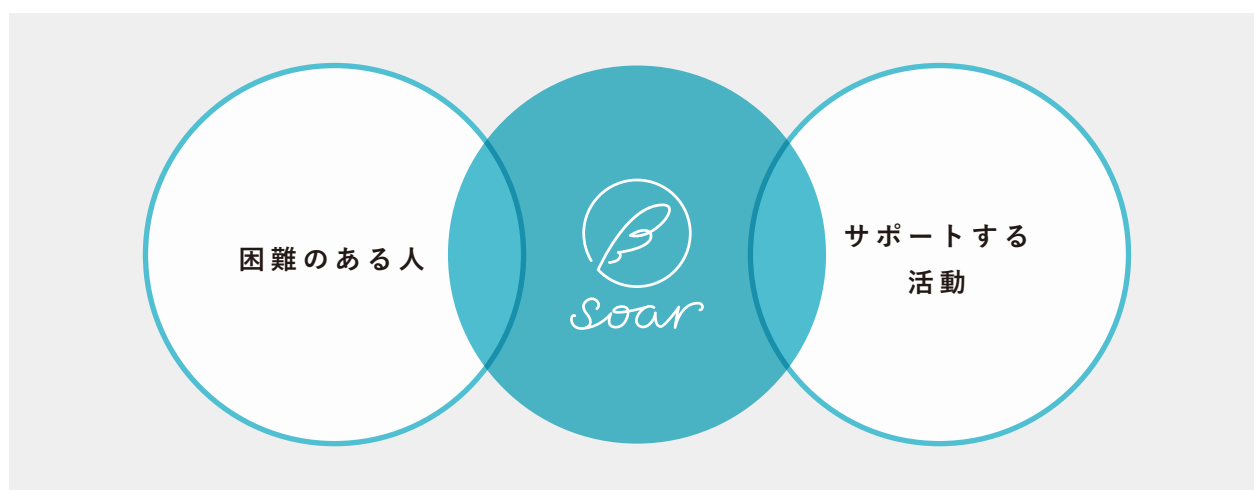
人の“可能性”に光を当てる

私たちは様々な困難の中にあっても輝きを失わない“希望”に光をあてることで、人がよりよく生きていくための まだ知られていない“可能性”を世の中に示していきます。

これまで分断されてきた人同士をつなぐことで、新しい価値を生み出し、より多様性のある社会を実現します。

Our value

両者の課題を解決し、 困難のあるひととサポートを結びつける媒介者に



見つける

社会的マイノリティ当事者や支援者が直面する困難や、その困難を解消するための活動を発見します。

編集する

その人の持つ“可能性”を引き出し、情報をより人の心に届きやすく、希望を感じることできるかたちに編集します。

伝える

メディアやイベントなどを通じて、困難に直面した人々をサポートする活動を社会へ発信し、分断されていた当事者と支援者をつないでいきます。

soar では、2018 年度(2017 年 11 月 1 日～2018 年 10 月 31 日)は多くの方に記事を読んでもいただきました。2017 年度は読者数が 28 万 4223 人でしたが、今年はその約 10 倍となる 261 万 5442 人に増加し、大きな成長を遂げました。

公開記事数

読者数

129 本

2,615,442 人

読者からの声

「記事を読んで、何度、涙を流したかわかりません。生き辛さしかないと思っていた世界に、確かな希望があることを教えていただきました」

「支援に関わる仕事をしていて、どんなに人も大切な物語があることを実感しています。様々な人の物語に触れられる soar の記事に心動かされました」

「家族に障害があり、苦しい姿を目の前で見てきました。マイノリティの人も含めてみなぎ生きやすい社会になることを信じて、soar を応援したいです」

「soar の記事を読んだことをきっかけに、自分も同じ病気かもしれないと病院に行き、治療を始めることができました」

全国の取材先

soar は関東を拠点に活動していますが、まだ全国的には知られていなくても、地方には素晴らしい取り組みがたくさんあります。今年度は福岡、熊本、広島、岡山、兵庫、大阪などに足を運び、取材を行いました。



日本で唯一、匿名でも赤ちゃんを預けることができる場所「こうのとりのゆりかご」。熊本にある病院に取材に伺いました。



通常の保育園の時間帯より遅い夜間まで保育を行う夜間保育園「どろんこ保育園」の取材では、福岡に行きました。



ゲイであることを公表して、大学で LGBT 学を教える眞野豊先生を訪ね、広島まで取材に行きました。



アートを活かして“その人らしく”生きる障害のある人たちに会いました。



病気や障害のある子どもの兄弟姉妹である「きょうだい」の支援をする清田悠代さん。大阪に伺って取材をさせていただきました。



多世代が集える介護付きシェアハウス「はっぴーの家ろっけん」を取材しに、兵庫に足を運びました。

記事のテーマ

身体障害や知的障害などの障害や、うつや脱毛症、会食恐怖症などの病気、ゲイやトランスジェンダーなどのセクシャルマイノリティ、貧困や社会的養育など、様々なテーマの記事を作成しました。

障害	13 記事	LGBT	4 記事
病気・難病	19 記事	高齢者	5 記事
子ども・若者	4 記事	メンタルヘルス	7 記事
福祉（施設、プロダクト）	21 記事	家族	5 記事

多くの方に読んでいただいた記事



「口唇口蓋裂」とともに生きてきた

小林えみかさん

小林さんの「ちゃんと幸せに生きてます」というメッセージをはじめ、病気があっても生き生きと過ごすことができる姿を多くの人に届けることができました。口唇口蓋裂当事者の方や、初めて病気のことを知ったという方からも感想をいただいています。



高齢者が自分らしく生活する

サービス付き高齢者向け住宅「銀木犀」

入居者や偶然訪れた人、併設する駄菓子屋に訪れた子どもたち、スタッフなど、様々な人に話を伺うフィールドワークという手法で作成した記事です。多角的な視点からこの場所の魅力を届けることができました。



オンラインカウンセリングサービス

「cotree」

心が不調だった時にカウンセリングに行くことができなかった、代表の櫻本真理さんご自身の経験から生まれた cotree。パソコンやスマートフォンからでも気軽にカウンセリングが受けられるという時代に沿ったサービスに、公開後は「実際に利用した」という声も多く寄せられました。

soar の記事に登場していただいた方のストーリーをより深く知っていただくため、また読者のみなさん同士がリアルな場で交流し、新たな学びや協力関係が生まれる機会をつくるために、soar では定期的にトークイベントを開催しています。

2018 年度は、居場所、多様性を受容するコミュニティや多様な“かぞく”のかたちなど、幅広いテーマについて参加者とともに学び考えるイベントを開催しました。

2018 年度は、合計 10 回のトークイベントを開催。延べ 786 名もの方にご参加いただきました。

soar のトークイベントでは、参加者同士のみなさんが交流する時間も大切であると考えており、自己紹介やワークショップの時間を毎回設けています。参加者のみなさんからは、「多様なひとの出会いや学びがたくさんあり、楽しく過ごすことができました」など、嬉しい感想を多くいただきました。





soar conference 2017～「回復」



多様な人が自分の可能性を活かして生きる社会をつくるために今必要なことを、ゲストの講演を通して参加者とともに考える soar 初めてのカンファレンスを開催しました。今回のテーマは、「回復」。「わたし」「からだ」「かぞく」「いとなみ」という4つのテーマでセッションを設け、様々な角度から「回復」について考えました。

「子どもたちに多様な大人とのつながりや居場所を生み出すには」



子どもや若者に、心のつながりがあるかぞくの存在や安心できる居場所を生み出すにはどうしたらいいか。「認定 NPO 法人 SOS 子どもの村 JAPAN」理事の田北雅裕さんと、「アフターケア相談所 ゆずりは」所長の高橋亜美さん。そして「認定 NPO 法人 PIECES」代表理事の小澤いぶきさんをお呼びして、様々な「“かぞく”のかたち」について考えました。

「その人らしさが立ち上がる、居場所のつくりかた」



どんな人も、ただ“普通に”その場にいられたり、他者と一緒にいることで可能性が開かれるような場所はどうやって生まれるのか。「工房まる」施設長の吉田修一さん、そして運営元である「NPO 法人まる」代表の樋口龍二さん。また聞き手として「有限会社リビングワールド」代表・働き方研究家の西村佳哲さんをお招きして語り合いました。

「インターネットで社会は“やさしく”できるか？」



「株式会社 CAMPFIRE」代表取締役社長の家入一真さん、「株式会社 cotree」代表取締役の櫻本真理さん。そして「株式会社 LITALICO」チーフエディターの鈴木悠平をゲストに、インターネットの可能性や社会との向き合い方について考えました。

soar では法人化以降、読者のみなさんに soar が生まれるまでのストーリーやウェブメディア「soar」を含めた法人の多様な活動内容、そして今後目指していきたい未来について直接お伝えする活動説明会を定期的に開催してきました。

2018 年度の開催数は計 15 回。述べ 412 名もの方にご参加いただき、昨年度より約 4 倍もの方に soar の活動をお伝えすることができました。



soar ではメディア活動で得た情報や人とのつながりを活かし、企業や学校、行政など、様々なセクターのみなさんと協働事業を行っています。「全ての人が可能性を活かせる社会であってほしい」という同じ願いを持ちながらも、異なる領域で活動するみなさんと協力しあい、社会にポジティブなアクションを起こしていきたいと考えています。

TEAM BEYOND

東京都が運営するパラスポーツ観戦促進プロジェクト「TEAM BEYOND」で情報発信の監修で協力を行いました。「パラスポーツで、未来を変えよう。」をスローガンに、2020 年東京パラリンピックに向けたこのプロジェクトに、soar がメディア運営で培ってきた視点や編集力を活かして貢献しました。

文字サイズ 中 大

トップ TEAM BEYOND メンバー パラスポーツ トピックス 参加する・活動報告 ギャラリー Q&A f t i

TEAM BEYOND

みんなで観に行こう、パラスポーツ。

MEMBER
メンバー募集
登録はこちら

天皇杯 第47回日本車いすバスケットボール選手権大会
「TEAM BEYOND」メンバー観戦会
2019年5月10日(金曜日)～5月12日(日曜日)
武蔵野の森総合スポーツプラザ
参加費特典あり
100名をご招待!
大会観戦

メンバー限定 観戦会を実施！「天皇杯 第47回日本車いすバスケットボール選手権大会」開催！

選手の緊張感が観客にも鮮明に伝わる！一般チームと日本代表が熱戦を繰り広げた「ポッチャ東京カップ2019」
レポート

歓喜の雄叫びが鳴り響く！「2019ジャパンパラポッチャ競技大会」で火の玉ジャパンのミラクルショットに感動
レポート

学校授業

小学校、高校から大学まで、様々な学校で授業を行いました。テーマはダイバーシティや社会課題を解決するメディアの情報発信、「やりたいことを仕事にする生き方」など。子どもたちに多様な生き方や働き方を知ってもらう機会となりました。

実施校（一部）：潤徳女子高等学校、慶應義塾大学、早稲田大学、京都精華大学



企業研修

様々な企業からご依頼をいただき、社内研修を実施。「社会課題を解決する事業の作り方」や「多様な人が生き生き働くことができる社会づくり」などをテーマに、講演やワークショップを行いました。

実施企業（一部）：「株式会社NTTドコモ」様、「EAファーマ株式会社」様、「株式会社ゼネラルパートナーズ」様



今年度は、516 人のサポーター会員のみなさんに寄付で運営を支えていただきました。みなさんからいただいたご寄付は、読者に情報を丁寧に伝えるための記事作成費、全国へ足を運ぶための取材交通費やサイト開発費に使用させていただいています。

2018 年 6 月には、初めてのサポーター限定の活動報告会を開催し、全国から 40 名のサポーターのみなさんに集まっていただきました！



法人化以降、soar が「人の持つ可能性を広げる瞬間」を届ける活動を続けられているのはみなさんの温かなご支援のおかげです。いつも本当にありがとうございます！

また今年度は、活動に共感し支援してくださる企業・団体の皆様を対象とした、法人サポーター募集を開始しました。現在、「株式会社ゼネラルパートナーズ」様、「株式会社 cotree」様が法人サポーターとして私たちの活動を支援してくださっています。



General Partners



soar は非営利型のメディア運営を目指し、2017 年 1 月の法人化と同時に寄付会員制度をスタートしました。2018 年度は、総収入の約 50% を寄付金から得られていますが、メディア運営にかかる全ての費用を寄付収入で対応はできておらず、不足分をイベント事業収益や外部との協働事業収益等で補填している状況です。来年度中に寄付金のみでのメディア運営を実現させるため、今後ファンドレイズにより一層力を入れていきます。

科目	金額		
I 経常収益			
1 受取会費			
正会員受取会費	0		
賛助会員受取会費	0	0	
2 受取寄附金			
受取寄附金		5,891,036	
3 受取助成金等			
受取民間助成金		0	
4 事業収益			
調査・メディア運営事業収益	2,311,200		
イベント事業収益	2,852,706	5,163,906	
5 その他収益			
受取利息		48	
経常収益計			11,054,990
II 経常費用			
1 事業費			
(1) 人件費			
給料手当	0		
退職給付費用	0		
福利厚生費	0		
人件費計	0		
(2) その他経費			
会議費			
旅費交通費	1,113,536		
外注費	5,699,422		
消耗品費	9,922		
賃借料	555,680		
支払手数料	195,088		
その他経費計	7,573,648		
事業費計		7,573,648	
2 管理費			
(1) 人件費			
役員報酬	0		
給料手当	0		
退職給付費用	0		
福利厚生費	0		
人件費計	0		
(2) その他経費			
会議費	10,980		
旅費交通費	126,712		
消耗品費	3,595		
賃借料	194,400		
租税公課	0		
支払手数料	529,612		
支払報酬料	151,200		
雑費	2,694		
その他経費計	1,019,193		
管理費計		1,019,193	
経常費用計			8,592,841
当期経常増減額			2,462,149
III 経常外収益			
経常外収益計			0
IV 経常外費用			
経常外費用計			0
税引前当期正味財産増減額			2,462,149
法人税、住民税及び事業税			0
当期正味財産増減額			2,462,149
前期繰越正味財産額			3,660,916
次期繰越正味財産額			6,123,065

まだ社員がおらず、スタッフは業務委託での勤務となっているため

地方取材を含めた、取材にかかる移動費

メディア運営にかかる執筆・編集や撮影費、サイト開発費、事務作業費など

理事会

代表理事：工藤瑞穂

理事：モリジュンヤ / 鈴木悠平 / 碓和生 / 櫻本真理

監事：小澤いぶき

アドバイザー：加藤徹生

経営管理メンバー

工藤瑞穂 / モリジュンヤ / 鈴木悠平 / 碓和生 / 樋口賢輔

マーケティング部

碓和生

飯高悠太

宮本舜

編集部

工藤瑞穂 / 鈴木悠平 /

松本綾香 / 田中みずほ /

糸賀貴優 / 馬場加奈子 /

井上いつか / 加藤南奈 /

野村夕子

事務局

栗田智美 / 山根優花 /

太田圭哉 / 前田彰 /

森川絢瑛 / 森美彩 /

草刈良充 / 小山晃徳

soar ではスタッフ、インターン、ボランティアなど、様々なかたちで運営に携わるメンバーがいます。メディア運営に関わってくださるライターやカメラマンを含めると、50 名近くが集まる組織となりました。

メンバーはそれぞれに、soar の目指す未来への強い思いを持って活動しています。ここでは、中心となる soar スタッフたちの思いをご紹介します

- 1 担当している仕事
- 2 soar の価値
- 3 関わる理由



工藤 瑞穂

- 1 soar の法人として経営全般を担いつつ、編集長としてメディア運営を統括
- 2 自分だけでなく、誰かの幸せを心から願う人たちが集っているところ。メンバーに読者、サポーターのみなさんの持つポジティブなエネルギーそのものが価値だと思います。
- 3 誰かが自分らしさを見つける瞬間、自分の可能性を活かせるようになる瞬間、つまり「soar な瞬間」が大好きだから。私自身もそんな風に生きていきたいと願っています。



モリ ジュンヤ

- 1 ウェブメディア「soar」の運営体制、経営全般・事業開発のアドバイザー
- 2 日本で非営利メディアの運営に取り組んでいる団体は多くありません。ですが、世の中には市場経済と相性が悪く、非営利メディアでなければ発信が難しい領域もあります。soar がテーマとしているのは、まさにそうした領域です。
- 3 非営利メディアだからこそ挑戦できるテーマの発信。それにより、情報を求める人と良質な情報とのマッチングを支援していくことが soar の目指すところです。それ自体が社会的価値があるだけでなく、非営利メディアの成功モデルとなっていく可能性も秘めています。soar の価値を高めながら、メディアの新しいモデルにもしていけたら、というのが僕が soar に関わる理由です。



鈴木 悠平

- 1 ウェブメディア「soar」を成長させるためのコンテンツ制作の仕組みづくり、編集部の人材開発、その他経営全般のアドバイス
- 2 寄付をベースに運営する非営利団体・非営利メディアという形態だからこそ、世のトレンドに左右されずに、さまざまな社会課題とその支援の方法、一人ひとりの回復のストーリーを丁寧に届けていくことができること。記事やイベントを通して、soar にかかわる人たちが同士の新たなつながりや物語が開かれていくこと。そうした循環をつくっていていること。
- 3 チームメンバー、サポーターの皆さん、インタビューの皆さん、読者の皆さん、soar を通して、出会い、かかわる人たちが好きだから。みんなと一緒に紡いでいく物語に確かな希望を感じるから。



碓 和生

- 1 ウェブメディア「soar」を成長させるための Web マーケティングの管掌、経営全般のアドバイス
- 2 誰かの物語にフォーカスすることで、同じような立場にある人やそれを応援したいと思う人たちを繋げること。もう 1 つは、社会的な 이슈をテクノロジーの力で解決できるんだというモデルケースをつくることだと考えています。
- 3 どれだけ価値のあることをやっても、世の中に届けられない活動がたくさんあります。インターネットを通じて、1人でも多くの人に価値ある情報を届けるためにチャレンジできること、それを目指せるチームで仕事をすることが楽しいです。



樋口 賢輔

- 1 経営、財務、組織づくりのアドバイス
- 2 「自分の知らない属性の人がいること、知らない経験をしている人がいる」ことを、丁寧に・ポジティブに伝えてくれるメディアだと思います。みんなが「人と違うこと」を Wrong ではなく Different だと思えるような世の中になることに貢献できる可能性があると思っています。
- 3 仕事で培ったスキルや経験を、「良いこと」をしようとしている人達に少しでも還元したいから。



松本綾香

- 1 記事企画のディレクション、編集、執筆、編集部メンバーのマネジメント
- 2 特定の社会課題でなく、テーマを横断して事例を紹介をすることで、新たな出会いを生み出している。soar がなければ関わらなかったような人たちがお互いの生き方に関心を持ち、繋がりを広げているところ。
- 3 多様な生き方に触れて「こんな生き方があるんだ」「こういう考えをしてもいいんだ」と許容範囲をどんどんと広げていってもらえている。自分自身のことも許してあげられるようになってきています。



栗田智美

- 1 トークイベント・活動説明会の運営、法人活動の PR、助成金申請など団体に関わる事務全般
- 2 1 人 1 人に寄り添った丁寧な物語が、それを読んだ人に温かな希望を届けること。またその先に、誰かの人生に笑顔が増えることはもちろん、時に社会を変えていく新たな活動が始まったり、その動きがさらに加速していくといった、温かな未来の創造に繋がっていく希望の広がりを実感できること。
- 3 soar がそっと人々のそばに寄り添っている世界を想像すると、私自身が幸せだと思えるから。その未来を実現するための活動に関わることは楽しいですし、「soar があって良かった」と言ってくくださるみなさんの声が、日々の活動の励みになっています。



太田圭哉

- 1 トークイベントの運営、SNS 運用・マーケティング
- 2 ウェブメディア「soar」を通して、誰かにとって希望となる情報が世の中に存在しアクセスできる状態を作れること。誰しもにとって必要なセーフティネットだと思っています。
- 3 自分が大切な人たちと生きる未来には、soar が目指す理想像が存在していてほしい。その夢を前に進めるために活動できることが、私に関わる何よりの理由です。

2018 年度は、メディアが大きく成長してサポーター会員数も増え、soar にとって活動の土台が整ってきた年でした。来年はさらに多くの方に soar の活動を届けていくため、さらなる挑戦を続けていきたいと考えています。

ウェブサイトのリニューアル

生きづらさや困難のある人が「困ったときに soar を読めば必ずサポート情報が見つかる」と安心して頼りにできる、「情報のセーフティネット」へサイトをリニューアルします。具体的には、サイト内で情報を探しやすく、またアクセシビリティを改善し障害者や高齢者にとってもやさしいサイトへと生まれ変わらせます。来年度はリニューアルの準備とその資金集めを行う予定です。



soar の情報をより多くのひとへ

メディア記事をより多くの方に届けるため、ウェブマーケティングに力を入れていきます。Twitter や Facebook でのフォロワー増加に取り組む他、困難に直面した人が情報検索サイトを利用した際に、soar の記事にたどりつきやすいよう SEO 対策強化に努めます。

